

キャンパス万華鏡

大学×SDGs (Sustainable Development Goals)

写真が語る大学の横顔



地域のために、世界のために 愛知淑徳大学

愛知淑徳大学コミュニティ・コラボレーションセンターでは、すべての学生たちの「違いを共に生きる」気持ちを育めるよう努めている。「地域に根差し、世界に開く」という姿勢で、気づきや学びを得た後、自主活動として継続的に地域活動していく支援をおこなっている。学生団体は約30。環境、福祉、子育て支援、国際協力、防災など様々な分野の活動は今後も継続して行う。

産学連携で循環型モデルへの挑戦!



九州栄養福祉大学

九州栄養福祉大学では、規格外トマトを活用した「トマトの恩返しカレー」や全国初の「トマトサブレ」を産学連携で製造・販売を行っている。年間100トンにも及ぶ規格外トマトをなんとかか活用したいという学生や企業関係者の想いのもと、現在は利益の一部が地元の子ども食堂への支援につながるなどの好循環が生まれつつある。第3弾、4弾の新メニューも現在準備中。Z世代のユニークなアイデアで更なる循環型モデルへ挑戦し続けている。

九州栄養福祉大学では、規格外トマトを活用した「トマトの恩返しカレー」や全国初の「トマトサブレ」を産学連携で製造・販売を行っている。年間100トンにも及ぶ規格外トマトをなんとかか活用したいという学生や企業関係者の想いのもと、現在は利益の一部が地元の子ども食堂への支援につながるなどの好循環が生まれつつある。第3弾、4弾の新メニューも現在準備中。Z世代のユニークなアイデアで更なる循環型モデルへ挑戦し続けている。



尚綱学院大学

インクルーシブな明日を目指し、地引綱大会を開催

尚綱学院大学は「障がいの有無にかかわらず、みんなで一緒にチャレンジしよう!」を合言葉に、様々な地域や団体との協力のもと「インクルーシブスポーツキャラバン」を年10回開催している。今年はその番外編として、インクルーシブ地引綱大会in石巻を開催した。あいにくの大雨の中での開催となったが、車イスの方をはじめ、150人以上が参加。様々な垣根を超え、みんなで力を合わせた結果は、まさに大漁。雨にも、風にも、障がいにも負けず、最後は参加者全員が笑顔に包まれた。



関西外国語大学

古着プロジェクト

関西外国語大学では、SDGsをテーマにグループディスカッションする「Global Engagement Mini-Series」と、実際に活動につなげる「Global Engagement in Action Series」が2024年度の秋学期に始まった。それぞれ毎週休みの時間帯に開催し、学部学科を越えて多くの学生が参加。「in Action Series」では、古着を回収して500円で販売し、収益はサステナビリティ活動をしている団体に寄付する「古着プロジェクト」が既に始動している。新たな企画も近く活動を開始する予定。

持続可能な社会の実装を考える



麗澤大学

麗澤大学では、SDGs推進活動の一環として毎年「SDGsフォーラム」を開催している。フォーラムでは「持続可能な社会の実現のために、未来に向けて、私たちができること」をテーマとした学生によるプレゼンテーションを実施。生成系AIを活用して学習格差の課題を解決する提案や、CO2削減に着目したSDGsカフェ自動販売機の提案など、独自性、具体性、実現性があり、今後どのように社会に発信をし、社会実装していくのか期待される。



ブラウンチーズでホエイをアップサイクル!

日本獣医生命科学大学

チーズを作る際に、原料乳10kgとした場合、できるチーズはたったの1kg。残りの9kgは、ホエイと呼ばれる水分が出る。ホエイは、栄養価が高いものの、流通や処理が難しく産業廃棄物として処理されている。日本獣医生命科学大学では、この捨てられてしまうホエイに注目し、ブラウンチーズを開発。ホエイを煮詰めて固め、「ブラウンチーズ」を日本に定着させることでチーズ工場のSDGsに貢献したいと研究を進めている。



捨てる雨水から活かす雨水へ

福井工業大学

近年、世界各地で渇水などによる水不足が大きな問題として取り上げられている。そのような背景の下、日常的に雨を水資源として利用しながら災害発生時にも普段通りトイレ洗浄用水などの生活用水が確保できる製品が必要であると感じ、雨水利用研究の第一人者である福井工業大学の笠井利浩教授とデンカアステック株式会社の共同開発でトイレ洗浄用雨水タンクが完成。目標期限2030年のゴールに向けて今後の展開にも期待ができる。



災害食の講習会を開く「防災女子」

女子学生の目線で防災を考える神戸学院大学の「防災女子」が2024年に結成10周年となった。メンバーは現代社会学部社会防災学科の学生が中心。災害時にもカセットコンロや耐熱ポリ袋で簡単に調理できる方法やレシピを教える講習会を各地で開き、備蓄用の食品や飲料水を使っただけ買いつけて常に一定量を確保する「ローリングストック方式」の普及に努めている。令和16年能登半島地震を受けて、メンバーは街頭募金にも立った。

結婚式を通じた地域活性化

兵庫大学

兵庫大学では、2018年に稲美町と連携して学生プロデュースのウェディングプロジェクトに取り組んでいる。同プロジェクトは『結婚式を通じて地域活性化を目指す』。稲美町を訪れたことのない人々もゲストとして参加し、「また来たい町」と感じてもらうことを目指す一方、結婚式を諦めていたカップルの夢を学生たちが叶える。稲美町で毎年行われ、これまでに7組のカップルが誕生。2019年度以降は他の地域にも拡大し、7年間で14組のウェディングを実現した。地域連携や多様性を尊重した結婚式を通じて、SDGs目標4「質の高い教育」と目標17「パートナーシップ」にも貢献している。



コーヒー豆の麻袋をアップサイクル

金城学院大学

金城学院大学の環境デザイン学科3年生は、コーヒー豆の麻袋をアップサイクルした商品を開発・販売した。昨年11月2日に、愛知県名古屋市の久屋大通公園で開催された「珈琲博覧会2024」にて販売。授業の中で商品の企画を考え、企業の協力のもと、商品製作に取り組んだ。学生は対面販売を通じて、アップサイクルの目的である「本来なら廃棄されてしまうものに付加価値をつけて生まれ変わらせる」ことを達成できた。

